

兵庫消防

発行所
公益財団法人兵庫県消防協会
神戸市中央区下山手通4丁目16番3号
編集発行人 安 満 真 哉

二〇二三年
全国統一防火標語
火を消して
不安を消して
つなぐ未来

県消防課・ 県広域防災センター！ 県消防防災航空隊 派遣期間終了と着任

(公財) 兵庫県消防協会

令和五年三月三十一日(金)
県災害対策センター会議室にて、県内各消防本部から派遣された職員の派遣期間終了の辞令交付式が執り行われました。

派遣期間終了の辞令と併せて、知事より派遣期間中の功績に対する感謝状が贈呈され、また県広域防災センターへ派遣されていた職員へは、県消防協会長からの、消防団員の教育訓練にご尽力いただいたことに対する感謝状が贈呈されました。

引き続きまして令和五年四月三日(月)、同じく県災害対策センター会議室にて、県内各消防本部から派遣された職員の着任辞令交付式が執り行われました。

派遣期間を終了された皆様には、その豊富な知識と経験を活かし、県消防防災の強化に尽くして下さいました。心からの感謝とお礼を申し上げます。今後のご活躍・ご健勝を祈念

しております。

新しく着任された皆様、県民の安全・安心のために、そして消防防災力強化のため、どうぞよろしくお願ひします。

◎解任

【兵庫県消防保安課】

北川 貴之 (神戸市消防局)

【兵庫県広域防災センター】

貝川 学 (姫路市消防局)

松山 智彦 (尼崎市消防局)

岡田 憲明 (淡路広域消防事務組合消防本部)

村木 照幸 (西はりま消防本部)

田中 勝純 (尼崎市消防局)

田中 良 (宝塚市消防本部)

(宝塚市消防本部)

◎着任

【兵庫県消防保安課】

岡本 隆 (神戸市消防局)

京本 俊彦 (姫路市消防局)

佐古 知春 (尼崎市消防局)

桐山 亨之 (三田市消防本部)

巖 朋憲 (宝塚市消防本部)

岩木 翔 (淡路広域消防事務組合消防本部)

立花 雄亮 (姫路市消防局)

阪本 順哉 (加古川市消防本部)

藤井 徹 (丹波篠山市消防本部)

(丹波篠山市消防本部)

【兵庫県消防防災航空隊】

宮本 卓弥 (神戸市消防局)

吉田 光宏 (神戸市消防局)

坂本 政法 (北はりま消防本部)

高橋 龍太 (丹波篠山市消防本部)

石古 拓也 (小野市消防本部)

葛島 崇緒 (赤穂市消防本部)

桐山 亨之 (三田市消防本部)

「兵庫消防」地区通信員について 「広報紙「兵庫消防」の充実に向けて」

兵庫県消防協会事務局

当協会より、年に四回発行している広報紙「兵庫消防」について、今年度も県・消防協会及び各支部の事業やその他最新の消防事情等を掲載し、中身の濃い充実した広報紙を目指してまいりますので、今後ともご愛顧いただければ幸いです。

(敬称略)

- 西播磨地区 長谷川将知
- 宍粟市 豊岡市
- 但馬地区 藤原 孝行
- 丹波地区 丹波篠山市 糸川 幸文
- 淡路地区 洲本市 平岡 哲



令和五年度兵庫県消防協会役員一覧

(敬称略)

今年度の当協会の役員が決定いたしましたので、ご紹介いたします。
令和五年度定時評議委員会及び令和五年度第二回理事会については、五月三十一日(水)に開催され、川西市消防団安満団長が会長に就任いたしました。
また、猪名川町消防団前岡団長、高砂市消防団三好団長、宍粟市消防団安原団長、丹波篠山市消防団田中団長、洲本市消防団岡澤団長の副会長就任が決議されました。
皆さま引き続き兵庫県消防協会をよろしくお願ひいたします。

防 災 監	遠藤 英二	猪名川町消防団 前岡 隆顕
副 防 災 監	池田 頼昭	高砂市消防団 三好 啓一
危 機 管 理 部 次 長	城下 隆広	加東市消防団 井上 正義
危 機 管 理 部 次 長	小野山 正	姫路市姫路東消防団 坂本 信嘉
総 務 課 長	多田 敦生	宍粟市消防団 安原 勝則
防 災 支 援 課 長	奥見 啓五	豊岡市城崎消防団 椿野 仁司
広 域 防 災 官	陰山 暁介	丹波篠山市消防団 田中 一裕
災 害 対 策 課 長	藤本 剛司	洲本市消防団 岡澤 伸祐
訓 練 ・ 調 整 官	月輪 敏郎	兵庫消防保安課 中道 一義
消 防 保 安 課 長	中道 一義	
広 域 防 災 センター 長	河本 要	
兼 消 防 学 校 長	栗原 利典	
広 域 防 災 センター 長		
総 務 部 長		

(令和五年四月一日)

令和5年度 第88期 初任教育入校式挙行!!

136名が消防士として訓練の第一歩を踏み出す!



(公財) 兵庫県消防協会



教育生宣誓



学校長式辞

令和五年四月五日(水)、兵庫県広域防災センターにて第八八期初任教育入校式が挙行されました。今年度の入校式は、四年ぶりに各消防長及び関係者の方々の参列を仰ぎ、決意も新たに消防士としての第一歩を踏み出す入校式となりました。

を習得するため、厳しい訓練を受けなければなりません。入校式後には早速、体力測定が実施され、教育生達は精一杯取り組みました。これから六ヶ月間の厳しい訓練で、頼もしい教官方に導いていただきながら、同期の皆さんと共に乗り越え、知識・技術を習得し、逞しい体力と精神力を兼ね備えた「消防士」として九月の卒業式を迎えていただきたいと思っております。



緊張の面持ちで祝辞を聞く初任教育生



来賓祝辞



国歌斉唱



令和五年度兵庫県女性消防団員技術研修会 開催！

公益財団法人兵庫県消防協会

令和五年七月二日(日)、今年度の女性消防団員技術研修会を、兵庫県広域防災センター兵庫県消防学校の講堂において、開催いたしました。

「救急救命に関する講座・実技講習」の二つを実施しました。

三田市消防団の樽口部長の活動事例発表では、女性消防団員(三田ファイヤールディース)の地域での活動内容の紹介に加え、樽口部長の身に起こった実際の体験談をもとに、救急救命を学ぶことの重要性についてお話しいただきました。

心肺蘇生法やAEDの使用方を学んでいただきました。心肺蘇生については、基本的な内容になるので、すでに講習を受けたことがある女性消防団員の方も多かったとは思いますが、改めてその重要性を認識していただける講座となりました。

さった女性消防団員の皆さまが、学んだ内容をそれぞれの所属消防団にフィードバックしていただき、今後の活動に活かしていただければ幸いです。

最後になりましたが、研修会当日は三田市消防団、三木市消防本部、応急手当普及員の会「いっぽ」の皆さまのご協力があり、スムーズに研修会を行うことができました。この場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございます。ございました。



事務局長(消防保安課長) 挨拶



グループごとの実技講習



三木市消防本部の方による講義



三田市消防団の樽口部長による事例発表



『地域にとってかけがえのない』

消防団を目指して

三田市消防団

す。

【三田市消防大会】

三田市は兵庫県の南東部に位置し、北西から南東にかけて武庫川が流れ、青野ダムや大川瀬ダムをはじめとした、大小さまざまな貯水池があり、豊かな水源を有しています。消防団は、明治時代にさかのぼり、消防組としてその組頭は町長が兼任しており、昭和一四年四月に消防組は警防団に改称され、その後、周辺町村との合併等による市勢の変遷を経て、現在の七分団の消防体制を確立しました。

【消防団の活動】

【新入団員・幹部団員研修】

毎年、新入団員に対し訓練



消防大会

は自らで守る」という精神に

基づき、地域の安全と安心を守るため活躍する崇高なボランティア精神を持った団体です。火災発生時にいち早く現場へ駆けつけ消火活動を行うばかりでなく、地震や風水害など大規模災害や林野火災時には多数の団員を動員し、災害防ぎよ活動を行うなど地域における消防防災の中核的存在として重要な役割を果たしています。また、平常時においても、訓練のほか、応急手当の普及指導、警戒、広報活動などに従事し、消防・防災力の向上や地域コミュニティの活性化に貢献し、市民に密着した安全で安心して暮らせるまちづくりのため、団員が一致団結し活動を続けてい

ます。防火・防災啓発と消防団の士気向上を図ることを目的として、毎年、桜の咲く四月第一日曜日に三田市消防大会を開催しています。この三年間はコロナ禍で規模を縮小して開催してきましたが、四年ぶりに「はしご演技」を実施するなど少



新入団員・幹部団員研修



活性化ビジョン表紙

【消防訓練】

全国火災予防運動に伴う消防訓練を実施しています。この訓練では、市内にある施設で、実災害を想定して取水から中継、放水に至るまで、常備消防と連携を取り活動を実施しています。

【操法大会】

毎年、各分団（七分団）から一チームが参加し、七チームによる市内操法大会を実施しています。約半年間それぞれの地域で練習し、消防団活動には欠かせない礼式やポンプの取り扱いについても学び、地域コミュニティの活性化に努めています。

【三田市消防団 活性化ビジョンの策定】

平成三十一年一月一日に消防団の今後の方向性を明らかにし、目的を達成するための大綱を示した基本構想と「ひとの活性化」・「ものの活性化」・「組織の活性化」という観点から長期的目標として推進する基本計画を示した「三田市消防団活性化ビジョン」を策定しました。令和四年にはその内容をブラッシュアップし、消防団のさらなる活性化を目指しています。

『真にやりがいがあり、地域に貢献する』

持続可能な消防団活動を目指して

佐用町消防団

佐用町は、兵庫県の北西部に位置し、北部は日名倉山をはじめ、郷嶋山、高鉢山、壇の山々がそびえ、中部には河川の流域に沿ってなだらかな丘陵地があり、集落や農地などが分布する、人口約一万五千人の町です。

わが町は、平成一七年一月に佐用郡四町が合併しました。消防団も四つの消防団が合併し、佐用町消防団として組織を再編しました。

現在は、各地域四二分団によって構成され、団長以下約七五〇人の団員が活動を行っております。

わが町が突如襲われた平成二一年八月九日の台風第九号災害から一三年が経過し、多くの皆様のご支援のおかげで復興が順調に進んでまいりました。

佐用町ではいつ発生するか分からない災害に備えるため、自分たちの命は自分たちで守る「自助」と地域の力で地域を守る「共助」を指針とし、各地域の自主防災組織や学校、消防団などが連携を取りながら、防災訓練などを実施しています。

また、佐用町消防団においては、このような地域の防災訓練の他、年度初めには消防出初式、年末には年末特別警戒春・秋の火災予防運動期間においては、各地域での中継訓練や防火パレードを実施するなど、消防団員の士気向上や地域の防災意識の向上のために日々訓練等に励んでいます。

このように「災害に強いまちづくり」「安心して暮らせる安全なまちづくり」を推進し、日々様々な活動に取り組んでいます。少子高齢化に伴う団員自身の高齢化や、若手団員のなり手不足等により、一人一人の負担が大きくなっている現状にあります。そのため、佐用町消防団では、昨年度に消防団活動に関する全団員向けのアンケート、その結果を踏まえて、本部幹部と分団幹部との意見交換会を実施し、その意見を下し、消防団活動における過度な負担の見直しと共に、「真にやりがいがあり、地域に貢献する持

続可能な消防団活動」を目指していくことを目標としました。今後も地域消防力を維持していくため、組織・機能の充実を図ると共に、未来の消防団の担い手、未来の防災



消防団による水防講習会の様子

リーダーの育成を目標に体験学習や広報活動を積極的にを行い、地域に貢献できる持続可能な消防団を目指して、引き続き消防活動に取り組んでまいります。



火災予防運動期間における中継訓練の様子

われら若手消防団員

～第二のふるさと～



神戸市中央消防団 団員 竹岡 世城

私が神戸市中央消防団第三分団に入団したのは令和二年七月で、現在三年目となります。

私は豊岡市出身で高校卒業と同時に神戸市に引っ越してきました。入団のきっかけは会社の方々に誘っていただいたことです。

私は幼い頃から地元の消防団員として活躍していた地域の方々の影響もあり、消防団のことを身近に感じていて、消防団の活動については知っていたのでついに自分がある消防団員になれるのかと意気込んで入団しました。

慣れない都会に当時一八歳の私

は不安を感じていましたが、入団直後不安はすぐにかき消されました。一人で神戸に出てきた私をいつも気にかけてくださるアットホームな雰囲気や地域に根差した訓練、パトロールをされる真剣な姿に感銘を受け、私は消防団を大好きになりました。

私は阪神淡路大震災のあとに産まれたため当時のことは話で聞いたり映像でしか知りませんでした。消防団活動を通じて神戸の街を守ることに対する使命感を感じています。地域に密着した訓練や消防署員の方々との訓練で火災に対する備えだけでなく、南海トラフ地震に対するの備えもしていきたいです。

自分自身、今以上に意欲的に活動に参加して消防団員としてのスキルアップをし、大好きな消防団の一員として第二のふるさとであるこの街を守っていききたいです。

わが町の団長さん

「職人気質の 団長さん」

姫路市網干消防団長

小西 泰博



姫路市網干消防団は、姫路市南西部に位置する網干地域を管轄しています。網干の名の由来は、魚吹八幡神社宮内の「網干町史」によりますと、養老四年(七二〇年)放生会の式日、殺生を禁じ、氏子の漁師は網を干して社参したので網干祭といひ、近郷を網干と称したことに由来とあります。魚吹八幡神社の秋季例祭は提灯祭りと呼ばれ、屋台一八台、檀尻(だんじり)四台、獅子檀尻一台が参加し、播州地区では最大の氏子数を抱え、播州の秋祭りの中でも代表的なものの一つで、二〇〇七年に兵庫県は無形民俗文化財に指定されています。その他、ダイセル異人館や旧網干銀行港倶楽部など歴史的建築物があり、伝統文化と日常が融合した地域となっています。

網干消防団は、勝原、旭陽網干、余部、大津、大津茂の六分団からなり、団員二五五人の姫路市では比較的小さな消防団ですが、どの消防団より纏まりと機動力があり、消防操法大会では常に高いレベルで頑張っています。やる気で満ちた消防団をけん引する団長は、地元産業

である畳店に就職し、その後独立。現在は小西製畳を営まれる畳職人です。「職人は一生勉強」と技術を磨くことに日々努力されています。入団は、平成三年四月。爾来、数々の火災、水害へと出動されました。職人気質で曲がったことが大嫌いな性格で誰であろうとズバズバと指摘され、皆の信頼も厚く、令和五年四月に網干消防団長に就任されました。このような人柄ですが、お孫さんには滅法弱くメロメロです。昨年の七五三にはお店を閉めてまでついで行かれる可愛がりよう。地元愛に燃える団長として、これから益々地域住民、消防団のため尽力されることを期待しています。

「新時代の改革者 乗るしかない ビッグウェーブに!!」

姫路市飾磨消防団 北村 宗弘



姫路市飾磨消防団は、姫路市南部のほぼ中央に位置し、西は広畑区から東は大塩町までの東西十四キロメートルの海岸線を管轄しています。当該地域には、石油コンビナート等特別防災区域を包含する工業地帯が広がっており、姫路市の産業の中心地となつて

います。また、「灘のけんか祭り」を代表とする秋祭りが盛んで、歴史と産業が融合する色彩豊かな地域でもありません。

北村団長は、昭和六十一年に入団され、以降三十六年間山火事での長時間にわたる消火活動や水難事故の捜索活動果ては着ぐるみの操演まで、さまざまな消防団活動に尽力され、本年四月に第十代飾磨消防団長に就任されました。就任間もない北村団長ですが、早くもその手腕を発揮し、古い慣習にとらわれることなく、効率的な団運営を目指し、団員のために様々な改革を実行されており。その経営手腕は、新一万円札で話題の「渋沢栄一」を彷彿とさせます。

そんな北村団長ですが、強権的に仕事を押し進めるようなところは一切なく、周りの意見に耳を傾け、ときには副団長や分団長にいじられながら、筋を通すところは通すといった、まさに理想的なリーダー像を体現されています。

令和の時代に入り、さまざまな価値観が変化していく中で、消防団にも変革が求められていきます。北村団長の座右の銘、京都大徳寺大仙院の尾関宗園の言葉「今こそ出発点」。過去の経験や成果にとらわれず、常に新たな出発点を見つけ、挑戦と成長を続けることが大切であることを表されています。まさにここが飾磨消防団の新時代の出発点。乗るしかないでしょう!!このビッグウェーブに!!

がんばってます、女性消防団員

『コロナ禍を乗り越えて』

淡路市消防団 上林 ちか子

私たち淡路市消防団女性隊の活動拠点となる淡路市は、淡路島の北中部に位置し、播磨灘を臨む海と山に囲まれた自然豊かで風光明媚な美しいまちです。

最近では、西海岸の整備により、新しい観光施設やお洒落なお店がたくさん建ち並び、休日には京阪神をはじめ各地から多くの観光客が島を訪れにぎわっています。

私はこの四月から淡路市消防団女性隊第五代目隊長として就任しました。

女性隊は、平成二七年に結成、当時二六名だった隊員も今では四三名が在籍、この団員数の充実が評価され、団に対し総務大臣からの感謝状も贈呈されました。

また、女性隊の愛称として、淡路市津名地域に伝わる静御前伝説と女性らしい語感、火を「鎮める」とイメージして名付けられた愛称「しずかファイヤーズ」として活動を続けていきます。

ここ数年は、長引くコロナ禍の影響により活動は制限されてきましたが、互いにアイデアを出し合い、こんな時だからこそ、前隊長の発案により、子どもたちに向けたメッセージ動画「防災体操『ぼうさい忍者』」の制作にも積極的に取り組むなど、ユーモアと笑いを絶やさず頑張っています。

(詳しくは市HPまたはYouTube動画をご覧ください。)

最後になりますが、私たち女性隊員は、男性団員のように火災現場で活動することはありま

せんが、市民に一番近い距離で救急法の習得をはじめ、火災予防活動など、まちの防災訓練、初出しにも参加し、幅広く防災の啓発に努めています。

そして近い将来、発生が予想される南海トラフ巨大地震や大規模災害発生時に女性隊が果たす役割を隊員相互でしっかりと認識し組織強化に取り組みたいと考えています。

幹部・新入団員 合同訓練の様子



住宅防火啓発の様子



編集後記

今年はこれまでにない暑さが続いています。が、皆様いかがお過ごしですか。

今月号では、二面に、令和四年度第七五回日本消防協会定例表彰式の様子を掲載しております。受章された皆さま誠にありがとうございます。

また、紙面作成にあたり各地区から多数の寄稿をいただきました。ご協力いただき、ありがとうございます。

今年度の「兵庫消防」の編集は松浦が担当させていただきましたことになりました。どうぞよろしく願っています。 「兵庫消防」が消防団に対する理解を深めるきっかけとなるように努めてまいりますので、今後もご愛読よろしく願っています。

